

STOP 糖尿病

H29年 糖尿病ケアチーム通信 第1号

糖尿病は心臓病や脳卒中の要因 5割以上が知らない

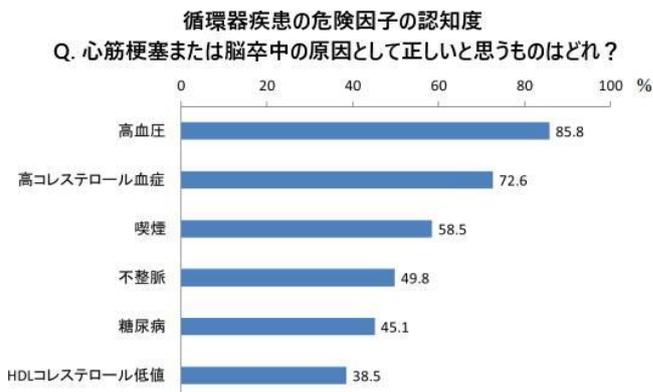
糖尿病の合併症としては神経障害、網膜症、腎症の3大合併症はよく知られていますが、動脈硬化が原因で起こる大血管障害についてはあまり認識されていないようです。

滋賀大学は、糖尿病が心臓病や脳卒中を引き起こす危険因子であることを5割以上の人が知らないという調査結果を発表しました。

心臓病や脳卒中などの循環器疾患を引き起こす危険因子は▽高血圧▽糖尿病▽高コレステロール血症▽喫煙▽不整脈などです。

研究では、無作為抽出された日本全国300地区の一般住民を対象に、2010年に実施された国民健康・栄養調査の対象者のうち、同研究に参加した20歳以上の2891人が参加しておこなわれました。

その結果、循環器疾患の危険因子であると正しく回答した割合は高血圧85.8%、高コレステロール血症72.6%、喫煙58.5%、不整脈49.8%、糖尿病45.1%、HDLコレステロール低値38.5%でした。



2010年国民健康・栄養調査対象者の追跡研究 NIPPON DATA2010 のベースラインデータ解析の結果

出典：滋賀医科大学 社会医学講座、アジア疫学研究センター 2017年



このうち糖尿病のある人で糖尿病が危険因子であることを理解していた割合は67.6%でした。日本では長年、高血圧を中心とした循環器疾患予防が行われ、1960年代以降は国民の血圧水準は年々低下し、循環器疾患死亡率も減少してきています。しかし、今後は高血圧だけでなく、糖尿病や喫煙などその他の危険因子の認知度も高め、個人個人が予防に努めていくことが重要であると研究者は述べています。

文責 森 中野渡